

卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断DI値 改善～

今期の業況判断DI値は、前回調査比31.0ポイント改善の0.0と上昇し前回調査予想値(▲6.9)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で31.0ポイント上昇の6.9、売上数量が24.1ポイント上昇の6.9、利益でも38.0ポイント上昇の3.5と全項目で改善となった。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

酒類等卸売業は、各イベントの開催・ホテルでの宴会等も再開しており、売上回復基調にあるが、コロナ前には至っていない。

食料品卸売業は、売上高はやや増加となったが、仕入価格や経費の増加により、利益圧迫し業況はやや悪化となった。

衣料品卸売業は、前期に比べると販売数量は増加したものの原材料の価格の高騰から利益は横ばいに推移した。

建設・建設資材卸売業は、仕入価格上昇するが、価格転嫁を図ることで売上増加し業況順調に推移したが、利益は横ばいで推移。

業種間格差もあるもののアフターコロナの動きが活発となり、総合的な業況は改善傾向にある。但し、「材料・仕入価格上昇」「経費の増加」「人員不足」など不安定な材料も多く今後の動きを注視している。



来期の見通し

～業況判断DI値 横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.0と横ばいの見通しである。項目別では、売上・受注で34.5ポイント低下の▲27.6、売上数量も34.5ポイント低下の▲27.6、利益でも38.0ポイント低下の▲34.5と全項目で大幅悪化の見込みとなった。

季節的イベントの開催に向けて期待感が大きいが「仕入価格の高騰」「燃料費、電気料」等の経費増加が見込まれる事、りんご卸売業については時期的に数量・販売が落ち込む時期となることからDI値は大きく落ち込む見込みとなった。

業況判断DI値の推移



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断DI値改善～



今期の業況判断DI値は、前回調査比19.8ポイント上昇の▲3.3、前回調査予想値(▲23.1)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で13.2ポイント上昇の2.2、売上数量が14.3ポイント上昇の1.1、利益では17.6ポイント上昇の▲5.5となり全項目で改善となった。

業種間格差があるが、仕入価格高騰に対する価格転嫁に苦戦している業種が多いものの、厳しい状況を脱した様子である。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

酒類小売業は、さくら祭りのアルコール持込が可能となったことやホテルでの宴会が可能となり、売上が増加した。

食料品小売業は人件費の増加や原材料等の値上げにより利幅が減少し、厳しい状況が続いているが、徐々に価格転嫁を進めている状況にある。

自動車販売は軽自動車が徐々に納車量が改善。中古車販売は車両価格が落ち着いてきたものの、在庫は高値仕入もあり利益の確保に影響を及ぼしている。

燃料等小売業は、原油価格高騰により仕入価格が上昇、ガソリン販売は変化ないが、灯油の販売が季節要因により減少した事から売上・利益とも減少傾向となる。

コンビニにおいては来店客が増加し、さくら祭り期間も集客の落ち込みがなく、今期は高水準で推移した。

来期の見通し

～業況判断DI値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比1.1ポイント低下の▲4.4の見通しである。項目別では、売上・受注で▲1.1ポイント低下の1.1、売上数量が1.1ポイント上昇の2.2、利益は5.5ポイント上昇の0.0となった。

各種イベント開催に対する期待感の見通しとなったが、来期についても、仕入価格のさらなる高騰が予想され、価格転嫁に苦慮する業種が多く、業種間での格差が継続する見込みとなった。

業況判断DI値の推移

